

---

# 面影

五十嵐 ライカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

面影

### 【Zコード】

Z0049V

### 【作者名】

五十嵐 ライカ

### 【あらすじ】

大好きな君の面影を…

(前書き)

なんか思いついたで書いたＳＳ

君と出逢ったのは、6年前。

僕と君が中学校に入学したときのことだ。

たまたま同じクラスになつた僕ら。

時折話す程度のただのクラスメイト。

だけど、僕は君に一目惚れをした。

やがて、中学を卒業する時期がやつてきた。

同じ高校に進学したかつた。

しかし、さして親しくもなかつたので、君がどこに進学するかわからなかつた。

偶然同じ高校に進学することを願つたが、叶わなかつた。

そして、卒業式。

君に僕の想いを伝えたかつた。

しかし、内気な僕は、勇気を出せずにいた。

結局、僕は君に想いを伝えることはできなかつた。

君と会えなくなつて、3年の月日が経つた。  
卒業してから、一度も君とは会えなかつた。  
それでも、未だ僕の中には君が居る。  
忘れることができない…。

外に出て、ふと気がつくと君の面影を探している。  
こんな場所に君が居るはずもないのに…。

逢ったとしても、会うことも出来ないの……。

もつ君は、僕を忘れてしまっているのかもしれない。  
僕ももう、君の事を忘れてしまわなければならぬのかかもしれない。  
そう、君は思い出の人。

だけど、今日も面影を探している。

もう、届くはずもない。  
わかっている、でも……。

君のこと、大好きだつたんだ。

伝えたかった。

けど、伝えられなかつた。

伝えられないからこそ、強く、激しく焦がれる胸。

いつまでも忘れられない、君を想う、切ないこの気持ち。  
あの日、僕が臆してなかつたら、伝えられたのに……。

後悔しても伝わらない。

だけどせめて、心の中で言わせてください。  
愛していました……。

(思ひもよらぬ、君の面影を探すでしょ？）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0049v/>

---

面影

2011年10月9日12時02分発行